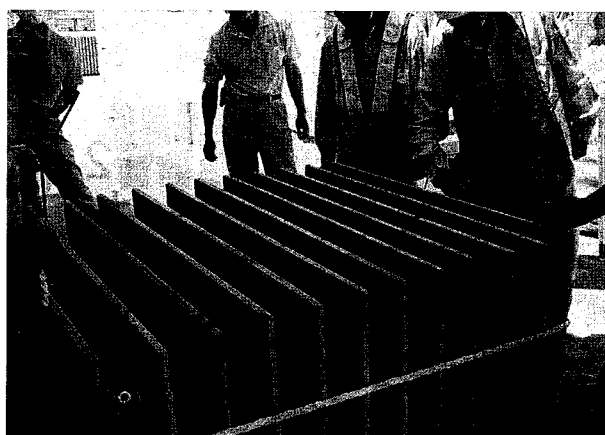


# 橋梁メーカーが興味

## 新世代PCa工業会 SDPPフォーム

新世代PCa工業会（会長＝篠田佳男氏）は先月12日、東京・四ツ谷のマイスペース東京で企画WG会議を開催した。会議では高耐久性埋設型枠・SDPフォームや景観型側溝・びつたん溝に関する情報交換や、新規開発商品についての検討が行われた。

最初に篠田会長が挨拶し、「中央自動車道の笹子トンネル崩落事故では天井板が落下して走行中の車輛が巻き込まれた。99年に発生した山陽新幹線福岡トンネルのコンクリート片落下事故でもインフ



東北地整で採用されたSDPフォーム

イディア次第で色々な場面に使える製品だと確信が持てた。埋設型枠では型枠と本体との一体性が問われる。先程のトンネル崩壊事故ではないが、30年、40年経過しても当初の性能を維持するような一体性を担保するのに従来が目粗しだけで良いのか、今迄やってきた試験結果も踏まえて改めて検討したい」と述べて、頭に描いているメカニズム的に一体化させる技術について検討する考えを

明らかにした。

SDPフォームは8月に東北地方整備局発注のカルバート工事に初採用となったことを受けて現在、東北技術事務所を窓口にてNETIS登録の手続きを進めている。先月下旬には最終ヒアリングを終え、新年早々にも登録の見込み。これに合わせて工業会では、SDPフォームの本格的な普及に向けた製造・施工マニュアルを作成することとしている。また「ステンレス鉄筋補強埋設型枠」の名称で特許出願も行っている（出願番号2009-1236034）。

SDPフォームの普及に向けては、橋梁メーカーが興味を示していることを受けて橋梁の壁高欄用埋設型枠としての採用を働きかけると共に、震災の復旧・復興工事への適用や放射能廃棄物を含む震災ガレキの保管容器への応用についても検討を進める方針を確認した。特に後者の保管容器については、業界全体を統括する形で一本化した商品の開発を進める意向。また景観側溝・びつたん溝も大手ゼネコンからの評価が高く、施工実績が順調に伸びている。さらに新規商品の企画については、この他、同工業会ではステンレス鉄筋を使った構造部材の実用化などについて、用途開拓を含めて実施工に向けた取組みを強化する考えだ。

## セメント価格9

### 14%値上げ

住友大阪セメント

住友大阪セメント（本社、東京都千代田区六番町、社長＝関根福一氏）は12月20日、セメントの出荷価格を4月出荷分からトン当たり1000円から1500円（約9.5%）の幅で引き上げると発表した。原材料となる産業廃棄物の受け入れで収支は黒字化しているが、販売価格が低迷しているため安定供給には価格の引き上げが必要だとしている。

今年度のセメント需要は、旺盛な震災復興需要に支えられ前年度比4%増が見込まれている。一方、セメント各社の生産能力は需要低迷による削減で需給状況は一時に比較してタイトになっている。セメント各社は2011年にトン当たり1000円以上の値上げを表明、300～500円の幅で浸透した。

今後、他のセメントメーカーも値上げに追随する公算が大きいが、需要者側のゼネコンは「工事価格の引き上げが難しい以上、値上げは受け入れられない」としており、交渉は難航が予想される。

## 米、生コン会社

### を完全子会社化

三菱マテリアル

三菱マテリアル（本社、東京都

千代田区大手町、社長＝矢尾宏氏）は先月21日、米カリフォルニア州の生コン連結子会社ロバートソン・レディ・ミックス（以下、RRM）を完全子会社化すると発表した。

RRMはカリフォルニア州南部の生コンシェアが4割超でトップ、砂利などの骨材シェアは3割を占める地元有力企業。三菱マテリアルは子会社の米国三菱セメント開発（ミネバダ州）を通じてRRMの発行済株式の70%を保有しており、これを2012年中に100%まで引き上げて完全子会社化する。取得価格は約6億米ドル（約504億円）。RRMはこれまで値段が安い三菱マテリアル製以外のセメントを全体の約2～3割購入していたが、完全子会社化により購入するセメントはすべて三菱マテリアル製になるという。

米国ではリーマン・ショック以降セメント需要は大幅に減少していたが、住宅市場も底入れの兆しを見せており民需を中心にセメント需要は増加に転じている。RRMが拠点を置くカリフォルニア州は2040年には2010年比で約30%の人口増が見込まれるなど長期的な需要も見込まれている。

こうした背景から三菱マテリアルでは、生コン需要が2017年頃にリーマン・ショック以前の水準に回復すると見てRRMの完全子会社化に踏み切った。